

攻めの施策【柱3：未来への投資】

西粟倉が対外的に注目をされてきたのは、村の特徴を活かしつつ先進事例となる内容に早くから投資を行ってきたことが一つの要因と考えています。

これからも持続可能な西粟倉村を形作るため、人・教育という村の基盤に加えて、村の特色となる再生可能エネルギーや生物多様性といった先進事例となるコンテンツに投資をしていきます。

▶ 施策内容

- 1、IU ターン促進・村の PR
 - (1) 移住促進
 - (2) シティプロモーション推進
 - (3) Uターン促進
- 2、脱炭素・生物多様性保全
 - (1) 再生可能エネルギーの導入・活用
 - (2) 生物多様性保全
- 3、教育・保育
 - (1) 西粟倉一貫教育の推進
 - (2) 対外的な魅力発信

▶ 施策を進めていく上でのポイント

- 移住の窓口を整える
- 再生可能エネルギー・生物多様性を村の特徴的なコンテンツとして進めていく
- 多様な学びの選択肢のある一貫教育の提供

▶ K P I（目標とする指標）

『村の出身者や移住希望者に村で暮らすことをおすすめてできる村民の割合』

柱3：未来への投資においては、移住者の受入れやIターンなど将来の西粟倉村を見据えた施策と記載していますが、村民が村のことをおすすめてできるかという観点は大切であり、役場もこの割合が増えるように取組を進めていく必要があると考えています。

また、無理におすすめる事ではないという前提のもと、自然に村の良いところが言える方を増やしていきたいとも思っています。

1、IU ターン促進・村の PR

(1)移住促進

【次の5年のコンセプト】
移住ニーズをワンストップで対応

➤ 施策の方向性

①移住窓口の設置

全国状況をみると、移住希望者からの相談や移住後のサポートまでワンストップで行う体制を整えている自治体が増えてきています。そのため、本村においても移住に関してワンストップで対応できる仕組みを構築していきます。

➤ 目標・行動指標

行動指標：移住窓口の設置

設定理由など：施策の方向性の記載に加えて、村の今後を考えると必要不可欠な要素のため窓口の設置を行動指標とします。一方で、移住希望者からみた村の印象を大きく左右する要素のため、スピード感を持ちつつ、着実な体制となるように他自治体の状況を踏まえながら準備を進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
必要機能の整理 実施方法整理	稼働開始 コンテンツ整備	目標を設定し取組を推進		

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none">・移住者が多く、受け入れる雰囲気がある・若い人が増え、多様な人がいる・移住者をあたたかく迎えられるようになった	<ul style="list-style-type: none">・移住後のフォローが不足している・定住へのバックアップ（住宅等）が弱い

(2)シティプロモーション推進

【次の5年のコンセプト】

村の魅力をきちんと届ける

➤ 施策の方向性

①戦略的な情報発信

西粟倉村は“奇跡の村”と評されるなど、メディアへの露出は多い自治体となっています。その一方で、情報発信においては各課・各事業に委ねられているところでした。

そのため、情報発信においては、「誰に・どのような内容を・どの媒体で」メッセージを届けるか、などマーケティングの観点を踏まえた発信に切り替えていきます。

②情報発信の一元化

戦略的な情報発信をしていくためには、情報発信を統率・一元化する必要もあり、知見のある人材の確保など課題も多くありますが、一元化に向けた準備を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

設定理由など：令和8年度から村の情報発信の状況や方向性を整理し、情報発信の実行役を担う人材を活用する予定としており、その人材を中心としてSNS活用などを進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
情報発信体制の整理 目標値設定	新たに設定した目標を元に戦略的な情報発信を実施			

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に有名、注目されている ・岡山の「北の玄関口」である ・メディア等で取り上げられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージと現実（暮らし）にギャップがある ・村外へのアピール不足 ・知名度が生活実感と結びついていない

(3)U ターン促進

【次の5年のコンセプト】

ゆるやかに村と村出身者がつながっている

➤ 施策の方向性

①高校・大学期における村とのつながり

村内に高校がないこともあり、これまで中学校卒業以降から二十歳のつどいまでの間は村の情報や村内の仕事など情報提供を十分にできていませんでした。

高校や大学は将来設計の重要な期間となるため、「村の現状を知ってもらい、村での生活も選択肢として考えてもらえる」ような情報提供を行っていきます。

また、高校進学後は村とのつながりが薄れてしまうという課題については、高校通学を支援する教育分野の施策だけではなくUターン施策の一環としても検討を進めていきます。

②村出身者のコミュニティづくり

情報提供と同様に、村出身者のコミュニティも高校・大学・社会人となるにつれて薄れていく状況であったため、ゆるやかな形のコミュニティを作ったり、村外在住となってもあわポ付与を行うなど、村と出身者がつながり続けるための取組を行っていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：村出身者のSNSコミュニティ参加人数

設定理由など：ゆるやかな形で村とつながるきっかけをつくるためのSNSコミュニティづくりを令和7年度から進めており、これから村出身者となる方の半数以上はSNSコミュニティでつながっているという状況を作りたいと考えています。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
54	60	66	72	78	84

資料：役場にて算出、単位：人、基準値：令和7年度末時点人数

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・地元に戻ると「おかえり」の言葉がある ・Uターンの待遇が良い ・実家があり安心感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・Uターン者が就職できる仕事がない ・Uターンを増やす施策をもっと強化してほしい ・一度出ると戻るタイミングが難しい

2、脱炭素・生物多様性保全

(1)再生可能エネルギーの導入・活用

【次の5年のコンセプト】

カーボンニュートラルを全村に広げるための準備期間

➤ 施策の方向性

①カーボンニュートラル（CO2 実質排出ゼロ）の実現

西栗倉村は「脱炭素先行地域」に認定され、施設の集中するエリアを 2030 年までに、全村で 2050 年までのカーボンニュートラルの実現を目指しています。

そのために、小水力・太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギー導入を引き続き推進していくとともに、電力の発電と消費の見える化を進めていきます。

②全村に取組を広げる準備

これまでは施設の集中するエリアにおける取組を中心としており、まずはこの取組を専門的な知見を取り入れながら進めていきます。

併せて、カーボンニュートラルの取組を全村に広げていくために、広げ方や具体的施策の検討を進めて次のステップへとつなげていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：村内の電力による CO2 排出量

設定理由など：2050 年までのカーボンニュートラル達成を目指すという長期の目標を掲げているため本計画においても CO2 排出量削減を目標とします。なお、令和 8 年度中に公共施設における再生可能エネルギー導入が完了予定となり、その後の数年間は省エネ等による緩やかな削減を見込んでいます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
3,089	2,800	2,780	2,760	2,740	2,720

資料：役場にて算出、単位：t-CO2、基準値：令和 6 年度

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・水力発電や再生可能エネルギーの取り組み ・地下水で冷房をしている ・環境意識が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の断熱対策が弱く、家が寒い ・冬の燃料代（灯油・ガソリン）がかかる ・省エネ改修などの補助が欲しい

(2)生物多様性保全

【次の5年のコンセプト】

生物多様性に向けた取組の起点となる村に

➤ 施策の方向性

①生物多様性の起点となる村に

西粟倉村を拠点とする「一般財団法人 ネイチャープレナージャパン」が設立され、自然に関する事業を起こす人材の育成がスタートします。

村においても企業版ふるさと納税の制度を活用した財団への支援に加えて、生物多様性を測る指標を検討し、西粟倉発の環境と経済をつなぐコンテンツとなるように準備を進めていきます。

②村の自然環境の保全

近年は、増えすぎた人工林を必要な部分は自然林に戻す取組や、オオサンショウウオがのびのびと暮らせる川の再生などを進めており、村内においても多様な生き物が暮らせる環境づくりを引き続き進めていきます。

また、鹿など自然環境や農作物を脅かす有害鳥獣についても、全国的に抜本的な対策がない中ですが、知見を有する方のアドバイスを受けながら対策を模索していきます。

③資源循環の推進

これまでの主流は「生産→消費→廃棄」の一方通行の流れであった所を、資源を循環させる「サーキュラーエコノミー」の考え方を取り入れて、村の経済循環・資源循環を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：5種以上の樹種が生えている森林面積

設定理由など：様々な生き物を育む環境づくりのために、多様な木々からなる森林を育てることを目標とします。具体的な目標値は令和8年度に見直す森林管理計画において検討し、単に面積を増やすという観点ではなく森林の階層構造や水辺環境などの要素も踏まえて検討します。

R8	R9	R10	R11	R12
森林管理計画改定 目標値設定	設定した目標に向けて取組を推進			

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> オオサンショウウオやホタルがいる 生きものが身近にいる 自然が豊かで川がきれい 	<ul style="list-style-type: none"> クマやシカが生活圏に出てきて危険 川が泥で埋まっている箇所がある 獣害対策の柵で景観が悪くなる

3、教育・保育

(1)西粟倉一貫教育の推進

【次の5年のコンセプト】

コンパクトかつ多様な人材がいる村の強みを活かす

➤ 施策の方向性

①成長に応じた体系的な学びの提供

村に保育園・幼稚園・小学校・中学校が1つずつあるという強みを活かして、英語やICT教育など成長に応じた体系的な学びを提供していきます。また、村内の先生が集まるネットワークにより、状況共有や進級・進学時の学びの継続を図っていきます。

②地域を学ぶ機会の充実

豊かな自然や多様な人材がいるという村の強みを活かして、あわくらみらい学（ふるさと学習）を地域教育コーディネーター（一般社団法人 Nest）により学校と地域をつなぎながら実施していきます。併せて、村で活躍する大人との関わりを増やし、子どもたちが課題を見つけ、解決のための実践をする機会を増やしていきます。

③子どもたちの学びや放課後の環境整備

子どもたちの放課後の時間を体験の場・キャリア教育の場としてとらえ、学童で過ごすだけではなく、部活・スポーツ・体験・学びなど多様な選択肢から選べ、個々の成長につながるような仕組みを検討していきます。

また、保育園の認定こども園移行や幼稚園舎の学童での利活用という子どもたちが暮らす環境についても検討を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

目標値：地域の人が参加した小中学校の活動及び授業数

設定理由など：コンセプトにも記載のとおり、多様な人材がいるという村の強みを活かして西粟倉らしい学びを作っていくために目標として設定します。計画を策定した当初（R2）は29回であり、大幅に増やしてきた中で今後も着実に機会を作っていきます。

基準値	R8	R9	R10	R11	R12
75	78	81	84	87	90

資料：役場にて算出、単位：回、基準値：令和6年度実績

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で先生が目が届く、手厚い ・「ふるさと元気学習」がある ・保・小・中が村内にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が固定化してしまう ・こども園（幼保統合）にしてほしい ・延長保育などの柔軟性が欲しい

(2)対外的な魅力発信

【次の5年のコンセプト】

教育も西栗倉の魅力にしてい

➤ 施策の方向性

①情報発信

西栗倉の学びの特徴やその様子などをSNSを中心として情報発信を行っていきます。なお、村全体の情報発信体制と歩調を合わせて、発信する媒体やその内容についても整理をしていきます。

②留学の受入検討

近年では保育園留学や小学校留学など主に都心部に暮らす親子が地方に数週間～数年など一定の期間を地方の学校に通い・地方で生活する、という動きが少しずつ広がっています。本村においても、体制や地域との連携など受入に向けて検討を進めていきます。

➤ 目標・行動指標

行動指標：村外からの留学受け入れ

設定理由など：新たに村外から人を呼び込む手段として重要な内容のため行動指標として設定し、留学を検討している方のニーズや村でできる受け入れ体制の双方を考慮して進めていきます。

R8	R9	R10	R11	R12
コンテンツ整備	お試し受け入れ	留学受け入れの実施		
情報収集・体制整備				

➤ 村民意見のまとめ

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・モンテッソーリ教育がある ・幼稚園と保育園が分かれている ・自然の中での保育が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が少なく競争心や切磋琢磨が育ちににくい ・村外へのアピール不足